

第95回登別市市民自治推進委員会 育み部会議事録

(敬称略)

開催日時	令和8年8月19日(水) 18時00分～
開催場所	登別市役所 2階 第2委員会室
出席者	(部会長) 磯田 大治 (副部会長) 山本 富美子 (部会員) 南 正彦、正源 孝志、合田 美津子、 松山 哲男、仲川 弘誓 (庁内委員) 西川原 邦彦、大越 智輝 (事務局) 大内 拓海、下國 陽、新関 麻亜子
欠席者	(部会員) 佐藤 文子
議題	(1) 部会長及び副部会長の選任について (2) こどもファースト・外国人住民との共生社会の取り組みについて
配布資料	なし

○会議の要点

1 本日の協議

(1) 部会長及び副部会長の選任について

- ・ 新体制について、部会長は引き続き磯田 大治氏を、副部会長には新たに山本 富美子氏を部会員の互選により選出した。
- ・ 令和8年4月をもって市民自治推進委員の任期が満了し、本日新体制での初めての部会のため、改めて部会員の紹介を行った。

(2) こどもファースト・外国人住民との共生社会の取り組みについて

(部会員)

「こども」の定義について以前話題になっていたと思うが、どのような話になったか。

(事務局)

以前の市民自治推進委員会での話し合いの中では、「0歳から18歳まで」をこどもとして捉えるという話になった。

(部会員)

その時の資料や、経過等を含めた資料があったほうが議論しやすいのではないか。

(事務局)

資料については、用意したいと思う。

先に、このテーマになった経過を説明する。

昨年度までの第4期基本計画についての議論が終わった後、今後どういったことを市民自治推進委員会で扱うテーマにしていくか、全委員さんにアンケートを取った経緯があり、アンケートの提出があった中で、

1. こどもファーストの取り組みについて
2. 市内公共施設等のバリアフリーの取り組みについて
3. 外国人住民との共生社会の取り組みについて
4. 図書館の移転問題について
5. 「市民自治」とは、どのようなことなのかなどを改めて再確認するとともに、その具体的な取り組みとしてどのようなことを考えるか。
6. これまでの市民自治推進委員会並びに部会における協議事項（検討事項等）などの協議方法（進行方法）について、望ましい進め方はなにか。

という6つの提案があった。これを正副部会長会議に諮り次のとおりとなった。

・「市内公共施設等のバリアフリーの取り組みについて」は、第4期基本計画のなかで協議体の設置を検討するということになったので、協議テーマにせず、今後市の進捗を自治推として確認しようということになりテーマから外すこととした。

・「図書館の移転問題について」はアーニス本館に移転するという協議体と、図書館を新設するという協議体を作るという話になったので、あえて市民自治推進委員会で協議せず、協議体でやっていただくという話になった。

・『「市民自治」とは、どのようなことなのかなどを改めて再確認するとともに、その具体的な取り組みとしてどのようなことを考えるか。』については、テーマというよりは、今後の進め方に関することなので別の場で考えましょうという話になった。

そこで、残った「こどもファーストの取り組みについて」と「外国人住民との共生社会の取り組みについて」を部会で話していきましょうということになった。

また、他の部会でも意見が出たが、今後この2つだけしかやるのではなく、それとは別に各部会でやりたいテーマがあれば自主的にやっていきましょうというものになる。

（部会長）

今後、事務局は部会長・副部会長会議で決まったことの情報提供を各委員へ報告願う。

ここからの進め方について、時間に限りがあるので、まず今日行うのは「こどもファーストの取り組みについて」「外国人住民との共生社会の取り組みについて」話し合い、残った時間があれば、自分たちでやりたいことを決めていきたいと思う。

（副部会長）

それぞれの部会で同じテーマを扱うが、例えば防災・環境部会なら防災と絡んだこともファーストを考えるとということか。私たちは育み部会として検討していくということか。

(事務局)

今日は幅広い観点で考えていただいて、意見を6つの部会分集め、フィードバックし、この分野ではどういうことができるかを話していく形を想定していた。

(部会長)

幼稚園児、小学生、中学生、高校生、専門学校生がいるが、ざっくりとどこにスポットを当てるか話していきたい。

(部会員)

抽象的な感じでいいでしょうか？

(部会員)

事務局に確認ですが、これまでの育み部会で取り組んできたことがあるが、それとの関連性はどのようにつなげていくつもりだったか。

(事務局)

事務局として考えていたのは、育み部会で言うと絵本の取り組みがあり、それはそれで継続して話をしていく。これまでのことをやめるのではなく、それとは別に行っていくという考えであった。これまでのことを全く否定するつもりはない。

(部会員)

市民自治推進委員会としての議題は、最初は健康で、2回目は子育てしやすいまちであった。あくまで今回の提案は、共通のテーマということと認識した。

(部会員)

育み部会そのものはどういう役割でできた部会なのかを再確認する必要がある。また、今までやってきた読み聞かせを今後どうやっていくかという話が必要だと思う。しぼらないと話が広がりすぎてしまう。

(部会長)

今は課題の抽出をしたいが、どうか。

(部会員)

課題の抽出は育み部会がいままでやってきたことを踏まえないと意味ない。

(部会長)

そうすると時間が足りないのではないかな。

(部会員)

時間ではなく、やらないと意味がないと考える。

(部会長)

では、あなたの考える育み部会の役割をお話いただけますか。

(部会員)

「育む」とは、登別の問題課題は何かを考えないといけないと思う。

(部会員)

恐らくそれは基本計画の際に話してきていると思う。こどもたちの教育は家庭だけではだめなので、こどもたちを育てる教育者を育てていくことも大事という話が出たと思う。また、こどもファーストの中でいろんな要素があるという話があり、そういったものを計画に入れてきたと思う。

(部会長)

P T Aの立場として、どうか。

(部会員)

今共働きが多く、放課後児童クラブに行っている子が多く、不自由な生活を余儀なくされている子が多い。そういったこどもたちのために何かできないかなというのは思う。親が働いてるがゆえに、こどもは放課後児童クラブにいないといけない。

(部会長)

学校現場では、どうか。

(部会員)

学級減がありこどもが減っているのはとても感じていることだが、登別市は放課後のこどもたちの居場所が少ない地域かと思う。古い施設が多いので、うまく活用されていないイメージがある。

先日別の会議でヌプルに行ったが、立派な会議室があったりコンセントがあったり勉強できるスペースがあったので、そこが放課後の居場所や、休みの日の場所として有効活用できればいいなと感じた。

(部会長)

新たな居場所作りが課題だと思う。

(副部会長)

今日たまたまテレビで見たが、こどもが宿題をA Iにやらせているようだ。その番組では、先生はある程度A Iかどうかかわかると言っていたが、登別市でもそうなのだろうか。

(部会員)

こどもたちは基本的に学校のタブレットでは使ってはいけないことになっているが、私物のタブレットではやれると思う。業者が作ったA Iを活用したドリルなどがあったそうだが、それだけでは、となり原点回帰になりペーパーに戻った例もあると聞いている。A Iドリルの宿題もやっていいが、ドリルも渡している状況で、全てをA Iではできない仕組みにしていると聞いている。

(副部会長)

こどもたちだけでお店に行くと買い物の際に足し算や引き算を勉強することとなる。でもこどもだけで買い物をしてはいけない決まりができたようだ。

また、今の時代かと思うが、不審者問題があるから、近所のおじさんおばさんなどの地域住民とこどもたちのつながりができたらと思う。

さらに、災害が起きたら、自分はもう逃げないという高齢者もいるが、こどもに助けを求められたらこの子の命を守るという思いで逃げると思うし、あたたかいまちができると思う。

(部会員)

登別市におけるこどもをはじめ、様々な問題課題は何なのかを把握、整理しないといけないと思う。A Iにしても、親にしても、今の社会においても昔と変わってきているから優先順位を決めて取り組んでいかないといけない。

(部会員)

副部会長の話聞いて思ったが、学校運営協議会とか、教育委員会が用意してくれるコーディネーターとか、学校に協力してくれる人がいるのが登別市の特徴というか、良いところだと思う。地域と学校を結ぶ役割、地域コーディネーターを置いてくれて、橋渡しをしてくれて、主導を町の人がやってくれる。登別市より規模が大きい他市では、大きすぎて、そういうものが置けず、校長や教頭が人探しからしなくてはならないが、登別市は市が用意してくれているので、現場としては助かっているし、そういう人がいることで、地域のおじさんおばさんと意外とつながっている。

また、こどもたちとしては、校区の関係で幼稚園から中学校卒業まで仲間が変わら

ないので、協力体制を感じるのが登別の良いところだと思う。

基盤があるので、ブラッシュアップするとかお金をかけていただくと、良い取り組みがよりできるのではないかと感じている。

(部会員)

その前に現状を把握しなければならないのかなと思った。

こどもが病気になったら預けられるところがないという方もいるし、こども食堂の利用者が本当に就学支援の子ばかりなのかどうかという現状把握などが必要だと思う。また、修学旅行のお小遣いには支援制度がないことから、以前社会福祉協議会で支援を行ったが、これにはかなりの申し込みがあった。ほかには、高校生なら誰でも大学に行く時代になったが、大学を受験する際の支援がない。

ひきこもりと言われるこどもがどのくらいいるのとか、登別市の情報を把握して、そういう情報を集めて提示していただくのが大切かなと思う。

(部会員)

自分自身はこどもと接点がないので、問題がどういうものかもわからないから現状把握のデータが必要だと感じている。登別市の実態を知りたい。

(部会員)

どういう資料がほしいかを各部会で上げてもらって、事務局に出してもらおうという進め方でいいのではないだろうか。

(事務局)

他の部会でも「外国人住民との共生社会の取り組みについて」において、どの国の方が多いのかという話になり、事務局で現在調べている。

(部会長)

ここまでの話を確認すると、

- ・こどもが不自由になっている
- ・放課後の場所が窮屈になっている
- ・A I についての問題
- ・駄菓子屋さんに気軽に来て学びがあったが、それに近い環境があったらいいのではないだろうか
- ・こどもが、地域のおじさんおばさんの生きるきっかけになる
- ・登別市は地域とこどもをつなぐものが意外と多く、それにお金をかけてもいいのでは

という話が出た。

ここで一旦「外国人住民との共生社会の取り組みについて」の話題に移りたいと思

う。

先日ルスツ村に行ったが、そちらには働いている外国人や観光に来ている外国人がいる。登別にも外国人のこどもがちらほらいるが、どのくらいいるか把握しているか。

(庁内委員)

6月に市議会にて答弁した内容で言うと、11名いる。日本語に不自由している子もいるが、特別な教育課程を編成し、北海道に申請すると教職員のOBの方が配置される制度を活用しながら対応している。今はタブレットや学習支援員も、語学の習得の手助けとなっている。

(部会員)

外国から来て就労している人が、どういうことに不便しているか声を拾う場はあるか。

(事務局)

昨年度、市連合町内会主催で外国人との交流会を3地区で行った。その交流をきっかけに町内会のイベントに来てもらったということも聞いている。また、不便なこととか、どういうことに困っているかとかについては、日本のルール（例えば、ゴミ出しなど）についての声があるようだ。

(部会員)

登別市には30年以上前から外国人が入ってきていて、その人たちと話したことがあるが、現在はそのときよりだいぶ増えている。しかし、実際どのくらいか・どこの国からかわからないので情報提供してほしい。

トラブルなどが大事になる前に、ルール化させて地域で上手く運用できるようにしてほしい。宗教のことが絡むと簡単ではないので、専門的な人が必要になることもあると思う。また、その国の方に合わせた本を図書館に用意しないといけないと感じている。

(部会員)

企業は外国人を雇用している企業が多いが、寮を作っているところもあり実態が分からない。店で会えば、交流を欲しているのかなという人もいるが・・・。

(部会員)

P T Aとしては、自分の校区にそういった方がいないためか、あまり外国人の方についての話題を聞かない。

(部会員)

先に登別市で働いている外国人の方がいて、あとからその家族が来る家庭があるようだが、あとから来る家族の方は日本語が分からないためいっさいやり取りができないというケースがある。アジア圏の言語ができる人がいればいいと思うが、人材が難しい。

(事務局)

市のほうで出している資料では、外国人の人口約580人。国籍別で一番多いのはミャンマーの方で、次いでインドネシアの方が多い。

(庁内委員)

医療機関などで、将来就職するなら奨学金を見てくれる制度があるそうなので、福祉現場で働いている方もいるかもしれない。在留資格の制度が変わってきているので、今後入国が厳しくならなければ、家族を呼ぶということがあるかもしれない。

(部会員)

日本も人口減少になっているので海外の人が来るのも必然である。

(部会員)

企業も人の取り合いだと感じる。

(副部会長)

治安も心配。日本と外国のモラルの違いで犯罪とか怖いと思う。

(部会長)

先日札幌市の旧小学校について、インドの会社が活用の権利を取ったが、その説明会で地域住民が猛反対して、最終的に撤退したという例がある。しかし、実際行ってみるとその旧小学校付近の仏像を見に、たくさん外国人が来ている。

地域の方は意外と外国人に対してウェルカムだが、地域の人以外が（インドの会社が入ることについて）反対している印象だった。

また、さらに別の市町村の話だが、スポーツ協会の立場で会議に行った際、もう外国人がいるのは間違いないので、企業を通じて参画してもらい、PTAとして入ってもらい、その人をキーパーソンにしていくのがいいという話だった。

(部会員)

いろんな企業の人と話すと、外国人人材を結構雇っているようだ。そして、今は住居がとても大事で、企業が住居を探すのが大変だということであった。一方で登別市は空き家が増えているが、登録するのに時間がかかり、そのうちに廃墟になってしまうことがある。まだ資産価値があるうちに、使ってくれる企業にマッチングする検討

をする必要があるのではないかと思います。

(庁内委員)

先ほど7月末現在の外国人約580人と言っていたのですが、世帯数を見ると522世帯であった。そのうちミャンマー人の方が144人で122世帯。インドネシア人の方が131人で131世帯であり、労働者として入ってきているようだ。

(部会員)

去年はどうですか？

(庁内委員)

459人で、世帯が409世帯である。

(部会員)

家族があとから来日する家庭について、今回は隣に住んでいる方がコミュニケーションが取れる方だったのでよかったが、今後は公的な立場の人が間に入ってくれたらスムーズになったかなと思う。

(部会員)

外国人の方が長く登別市にいて、そのこどもが学校卒業し、そのこどもがこどもを産んだ時に問題が起きるので、そこまで話し合っていないといけないと考える。

(部会員)

永住権も厳しくなっている現状があるので、短い期間で暮らす人とどう接していくか考える必要がある。例えば、Aという国とBという国とのいざこざがあつて大変だとか、いろんな話を聞く。また、短い期間だけ登別市に住む人と、長い期間住む人とは接し方が違うと思う。

(部会長)

では、事務局で内容を整理して、正副部会長会議で出していただくということでしょうか。

(事務局)

承知した。

(部会長)

それでは、そのほかに育み部会独自で取り組んでいく内容について何かあればお願いする。

(部会員)

今は思いつかないので、また追って話したい。

(副部会長)

第2回の育み部会はだいたいいつ頃か。

(事務局)

正副部会長会議を10月上旬に検討しているので、10月中旬以降になる見込みである。

(部会員)

育み部会として行っていくことを話し合う時間がないように感じる。

(部会長)

毎回集まるのも大変なので、メールの活用も検討していったほしい。

2 次回の育み部会について

- ・正副部会長会議後、開催予定。